

JBIA 洋書輸入協会会報

Vol. 26 No. 10 (通巻305号) 1992年10月

ドイツ出版協会会長に G.クルツェ氏が就任

本年5月、ライプチヒにおいて開催された「ドイツ出版・書店協会」(Boersenverein des deutschen Buchhandels)の総会で、グロッソハウス・ウェーグナー社(Grossohaus Wegner & Co.)社長ゲルハルト・クルツェ(Gerhard Kurtze)氏が会長に選ばれ、10月、本年度のフランクフルト書籍展の終了をまって、正式に就任することになった(任期は3年)。

「ドイツ出版・書店協会」(以下、ドイツ出版協会と略)は1825年創立という古い歴史をもつ団体で、現在、総数6,444にのぼるドイツの主要出版社・書店及び取次業者によって構成されている。

この協会の会長職が出版や書籍販売に携わるドイツの業界人にとって、たいへんな名誉職であり、かつ重要なものであることは言をまたないが、取次業界のものがその任にあたるのは、今回のクルツェ氏をもって嚆矢とするのではなかろうか。

ゲルハルト・クルツェ氏は1932年のハムブルグ生れ。若くしてウェーグナー社に入社、1963年以来、同社の代

表取締役社長として特にその輸出部門の発展・拡大を図り、今日を築きあげた人である。1972年以来、彼は(一、二の例外を除いては)毎年、来日し、日本の業界と深い接触を持つ

ようになる。その範囲はまことに広く、我々は、時には彼によって、自分の国の業界事情を知ること、まれではなかったように思う。また秋のフランクフルト書籍展を訪れた人は、彼の積極的なプロモーションに感じいるとともに、至れり尽くせりの対応に感謝したこともある。

1975年春、何度目かの来日をした彼は、当時藍沢ヒルの事務所で開かれていた洋書輸入協会の理事会を訪問し、挨拶をかねて、ドイツの書店についての話をした。後に彼は、その時の話をまとめた原稿を送ってくれたので、それは「ドイツ書店の現状と将来」という題名で会報の



ドイツ出版協会会長に G.クルツェ氏が就任1	フランスの書籍送料新料金(日本向) ...3 おしらせ3 洋書輸入協会史(74)4 うちの会社6	総代理店ご案内6 東京の坂と橋と文明開化(29)7 広告8
海外ニュース2		
フランス船便廃止に関して3		

1975年（S.50年）6月号に掲載された。

その中で、彼は日本との関係について次のように述べている。

『日本はドイツの書籍・雑誌の市場として特に重要な国であります。この場合長い伝統に培われた両国間の親善と学術・技術の諸分野に於ける交流協力を忘れてはならないと思います。しかしドイツ書を提供する我々の側からすると次の点に特に考慮しなければなりません。

a) 輸送に長期間を要すること。又、日本の洋書業者の多くが、特に大学・図書館等に納入したものについては、代金回収に長時日を要するため、輸入先への支払期限を守れないケースが多いこと。

b) 日本の洋書取次業者（特にJBIAメンバー外の業者）のうちには、その経営・財政内容が不明なものが多いし、又、大きな会社、古くからある会社に勤めていたものが、自立し、かつての親会社の顧客を自己のものとして、新社を設立するケースがあるが、これもドイツ側にとって不安な材料のひとつである。

c) 日本の外国書籍・雑誌の価格設定は、公定レートより上の換算をとっているため、一層高いものとなっている。もしも、誰か新しい業者が、JBIAメンバーの利害などを考慮することなく、安い換算を取り始めたら、業界は混乱するのではなからうか。

このような一連の危惧はありますが、また一面、日本の洋書業者のとっている積極果敢な営業法と、長年の取引の間に生れる、会社同士、或は個人同士の良き連帯が示すもの、それらを我々は高く評価するものです。』

20年近くの歳月がこのときから経過しているのだが、その内容には、今日の状態を予見している点もあることに気付かれる方もおられることだろう。

少々、引用が長すぎたかもしれないが、これによって彼の卓越した見解の一端を知ることができよう。

いま、ドイツ出版協会の会長として、同時に現職のウェーグナー社の社長として、その激務に立ちむかおうとする彼に、我々は、日本の友人として、心からのエールを送るものである。

（メクレンブルグ商会 鈴木和夫）

海外ニュース

米国出版産業

—1992年は売上の急増を予測—

書籍産業研究グループ（BISG）の年次レポートによると1992年の書籍売上は、全ての領域において過去2年よりも急な成長を続け、年末には168億ドルに達すると予測している。本年の売上成長率は、'91年が4.5%、'90年が5.3%であったのに対し、7.2%と予想されている。また売上総冊数は3.6%の率で成長し、約23億冊に達するものとみられている。これは、1989年以来最も急速な伸び率である。

分野別では、トレード書が10.7%、うち児童書が最も著しい伸びで12.5%の成長率、売上13億ドル、トレード書全体の売上は47億ドルに達する見通しとなっている。また、現在売上全体の27.1%を占めるトレード書が1996年には30.7%にまで伸びるとみられている。専門書は8.4%増で売上30億ドルとの数字が出ている。出版業界全体の伸び率である7.2%に達しないとみられているのは、小中高教科書とカレッジテキスト、ブッククラブ、大学出版局の各部門で、それぞれの伸び率は0.3%、4.6%、5.8%、5.4%となっている。しかしながら、教育書は今後5年間もっとも著しい回復が期待できる分野ともいわれている。

また、今後一定期間に売上増の見込める分野として、旅行書、家庭書、コンピュータとソフト関係、メキシコ関係、そして1980年代に流行ったヤッピーブックスの類をあげている。出版業界のオブザーバーの分析によれば、レファレンス書や専門書といったいわゆる“必要書”よりもトレード書の成長が急なことから、米国における書籍購入は個人による消費が公的機関による消費を上回っていると考えられる。

—P.W. 7月20日号、

BP Report、7月20日号から抜粋—

(投稿)

「フランス船便廃止に関して三宅氏の投稿を読ませていただいて。」

今回、フランスの書籍の郵便による船便の廃止に関して、フランスの多くの出版社の代表であり、パイプ役を務めるビューロー・ホソヤの細谷氏に関係業者が依頼し、同氏が世話人となり、洋書輸入協会理事長ならびに会員有志が嘆願書をフランス政府、フランス出版組合に送付しました。また会報 Vol. 26 No. 8号の「三晃図書」様のような投書等、このような活発な動きは、フランス書籍を中心に輸入している者にとって有難く思います。

まず今回の船便廃止は、フランスの本のみの輸入で生活している私達にとって死活問題でした。大手輸入業者のように独自の輸入ルートも持っていません。特に語学教材を中心の場合、例えばワン・タイトル1000冊前後のものは、多少時間はかかっても、少しでも安く入らないと、やっていけません。もちろん新刊書、科学技術書等の特別なものは、エア・フレート⊕援助金の便を利用しています。

つまり用途に応じた使い分けが必要です。船便と air フレートの両方の選択余地を、どうしても残さなければなりません。今回の嘆願書では、船便廃止がフランス書籍の輸入の減少を招き、ひいては、フランス文化発展と日仏相互理解に大きなマイナスになるか等、具体的な事が書かれています。

長年の経験上フランスに関して言えば、納得のいく具体的な要求は対話の糸口になり、相互理解、信頼を深めます。今回もこの嘆願書により、フランス政府はこの秋以後、日本に対して船便の再開、エア・フレートの援助金の維持等の具体案を出しているようです。

1993年からの欧州統合等、これからは輸送方法その他で、いろいろな動きが出てくると思います。その時に、各会員の活発な意見交換をもとに、洋書輸入協会が相手国の出版協会、関係政府省庁と話し合い、イニシアチブを持った政治力を発揮され、具体的にどのように、行動していけるか、今後も期待します。

フランス図書専門店 欧明社
奥山由紀夫
1992.8.20

フランスの書籍送料新料金（日本向）

書籍送料新料金が一部、フランス郵政省により実施されました。

1. 対象 書籍のみ
2. 実施日 去る8月10日より
3. 料金表

a. 郵便小包（5 kg まで）PAQUETS POSTAUX

重量	料金
1000g	27.00 FF
2000g	36.00 FF
3000g	50.00 FF
4000g	70.00 FF
5000g	90.00 FF

b. 特別郵袋（5 kg 以上25kg まで）SACS POSTAUX

1 kg あたり 14.00 FF

☐c. 船便 VOIE MARITIME につきましては、開始日程連絡待ちです。

おしらせ

ゲーテ書房は、このたび有限会社から株式会社に組織を変更し、社名を次の通り変更いたしました。

新社名：株式会社ゲーテ書房
Goethe Book Co., Ltd.

日本レンタカラー株式会社は、7月1日より100%ソニー㈱の子会社となりました。代表取締役以下の役員は次の通りです。

代表取締役社長 鈴木 正弘
取締役営業部長 江口 隆之
取締役管理部長 小野寺聰嗣

洋書輸入協会史 (74)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

82 昭和35 (1960) 年度 (s35. 4 月～s36. 3 月) の規約改正、理事改選、新入会員、退会者など(前号よりの続き)

82.3 名古屋地区に東海懇談会設置

昭和35 (1960) 年10月5日の理事会に、名古屋地区で地元の洋書輸入業者及び出先機関が会合し、洋書輸入業者東海懇談会の設置を相談し、規約を作った旨の報告があった。

この懇談会には、洋書輸入協会に未加盟のところも関わっているため、洋書輸入協会東海懇談会とせず、洋書輸入業者東海懇談会とした由。会員は次の通り。

大竹書店	名古屋市中区
海外出版貿易株式会社名古屋支社	〃
株式会社海外書籍貿易商会一宮営業所	一宮市
株式会社紀伊國屋書店名古屋営業所	名古屋市中区
株式会社 文教社	津市
株式会社ユー・エス・エシアテック・カンパニー名古屋出張所	名古屋市中区
大雅出版貿易株式会社名古屋出張所	名古屋市中区
日本洋書販売配給株式会社名古屋出張所	名古屋市中村区

丸善株式会社名古屋支店 名古屋市中区
規約の要点としては、(1)この会は愛知県、岐阜県、三重県に所在する洋書輸入業者をもって組織すること(2)事務所は丸善名古屋支店内におくこと(3)役員は幹事若干名とし、幹事長を互選すること、などが挙げられる。

理事会としてはこの報告に対し、次の対策を講ずることとした。

(1) 洋書輸入協会未加盟のところを極力勧誘して、協会に入会して貰う。

(2) その上で規約を改正し、洋書輸入協会東海地区懇談会とし、協会の中の正式な組織としたい。

なお、この懇談会の初代幹事長には丸善名古屋支店、幹事には紀伊國屋書店名古屋営業所、海外出版貿易名古屋支社が選ばれている。

82.4 新入会員

(1) 株式会社三省堂書店 千代田区神田神保町1-1

代表者 亀井豊治

資本金 900万円 従業員 88名

創立 昭和3年10月

昭和35 ('60) 年4月11日付、JBIA No. 97において、入会承認の件が会員に通知されている。また同社洋書部については、JBIA 会報 Vol. 3 No. 6、昭和44 ('69) 年6月号の6ページに紹介されている。

三省堂の方は、関東大震災後に再建したバラック建ての店舗で、このときの売場主任の天童氏が洋書と和書を並べて売り成功している。昭和16年3月に海外出版物輸入同業会が結成されたが、その時作成された会員名簿には、三省堂商事株式会社 代表者永井茂弥として掲載され、昭和21年8月の戦後の再建創立総会の折には、三省堂興業株式会社 代表者矢野誠三として会員名簿に記録されている。そして同社から昭和25年度に退会届が提出された。しかし今度の入会は、三省堂書店としてのものである。

(2) オリエンタル・ブック・サービス株式会社 港区麻布三河台町18六本木ビル

代表者 浜本義憲 資本金 100万円

従業員 10名 創立 昭和33年9月

昭和35 ('60) 年5月2日付、JBIA No. 98にて入会の旨が会員に通知されている。またJBIA 会報 Vol. 3 No. 4、昭和44 ('69) 年4月号の2ページに、同社の紹介が掲載されている。

(3) 株式会社東京堂 千代田区神田神保町1-17

代表者 大橋勇夫 資本金 300万円

従業員 90名 創立 明治23年3月

昭和35 ('60) 年5月14日付で、入会承認の旨が同社に通知されている。

東京堂は戦前は取次業界のリーダーの立場にあった。戦時中の企業整備で取次部門が日配に統合され、以来書店と出版が主体となってきた。出版部門を独立させて東京堂出版とするのは昭和39年のことである。

(4) イタリアヤ書房 千代田区神田神保町2-23 飯田ビル

代表者 西村暢夫 資本金 100万円
従業員 3名 創立 昭和34年4月

昭和35年5月25日付、JBIA No. 101 によって入会の旨が会員に通知されている。また、JBIA 会報 Vol. 2 No. 2、昭和43（'68）年2月号の2ページに、同社の紹介が掲載されている。当時、イタリア書の専門店が遂に出現したかという驚きが、業界・需要者双方に持たれている。

(5) 本流株式会社 中央区京橋3-1 第一相互館201号

代表者 居村方治 資本金 200万円
従業員 15名 創立 昭和33年6月

昭和35年5月25日付、JBIA No. 101によって入会の旨が会員に通知されている。またJBIA 会報 Vol. 1 No. 7、昭和42（'67）年11月号の3ページに、同社の紹介が掲載されている。

(6) 株式会社文教社 津市大谷町11

代表者 小林重芳 資本金 18万円
従業員 5名 創立 昭和24年4月

昭和35年11月15日付、JBIA No. 115によって入会の旨が会員に通知されている。

この会社は、82.3項「名古屋地区に東海懇談会設置」で取り上げた新設の地区懇談会メンバーに加わっており、洋書輸入協会に加入するよう勧めていたのが実ったものである。

(7) ノバ商事株式会社 中央区八重洲5-5 幸田ビル

代表者 桜井良平 資本金 50万円
創立 昭和35年8月

昭和36年2月28日付、JBIA No. 121によって入会の旨が会員に通知された。同社は前掲新入会員の本流株式会社の、スペイン語部門が独立したものである。

82.5 退会者なし

82.6 会員数

昭和34年（'59）年度末（昭和35年3月末）現在の会員数が51社であり、昭和35（'60）年度中の新入会員が7社、退会者0のため、昭和35年度末（昭和36年3月末）現在の会員数は58社である。

なお、昭和35年5月25日の協会総会の席上、桜井理事長代理は、現在の会員総数56社と報告している。この時点では未だ文教社とノバ商事の2社が入会していなかったため、丁度計算が合うことになる。

82.7 代表者、社名、住所などの変更

(1) 株式会社極東書店 昭和35年5月2日付、JBIA No. 98 により、新代表者安井正幸（旧代表者坂井松太郎）と代表者の変更が会員に知らされた。

(2) オリオン商事株式会社は、株式会社オリオンと社名を変更した旨、昭和35年8月15日付、JBIA No. 109 により会員へ通知。

(3) 大雅出版貿易株式会社東京支社は、千代田区神田西福田町2聖徳ビル2階へ移転。上記No. 109による。

(4) パーキンズ・オリエンタル・ブックスは、中央区銀座東7-6双葉ビル6階へ移転。上記No. 109による。

(5) 本流株式会社は、港区青山南町6-50へ移転。上記No. 109による。

82.8 業界消息

(1) 平田晴義氏、資料研究所を創設

ユー・エス・エシアテック・カンパニーに永年勤務された平田氏が、資料研究所を創設された。昭和35年5月5日付で、同社山川隆雄社長と平田氏の連名の挨拶状が各社に送付された。

(2) プリティッシュブックス株式会社の酒井忠男氏から、ショールームが完備したのでロングマン社香港支店長アトキンス氏の来日を機に、開店披露を兼ねカクテルパーティを開く旨案内があった。

(3) 協会事務局の田辺寛氏（丸善）が日大附属病院に手術を受けるため入院した旨、昭和35年8月の理事会で報告された。

(4) P-H 社長懇談会に出席

昭和35（'60）年10月12日に、丸善地下ピーコックで、来日した米国 Prentice-Hall, Inc. の President、Mr. Jhon G. Powers を囲み、洋書輸入協会の懇談会が行われた。

(5) 丸善外国雑誌部長に小林氏

それまでの丸善の外国雑誌部長北川氏の大阪支店長への転出に伴い、新たに小林俊亮氏が就任したので、昭和36（'61）年3月8日の懇談会の折に、会員へ紹介された。

（続く）

うちの会社

「日仏版細腕繁昌記」楽あれば苦あり…………

ビューロー ホソヤ

1984年、東京に毎週のように大雪の降った冬、フランス某出版社日本法人を退社し、その後、個人事務所を設立。事務所名は、いろいろ考えたが「名作」がなく、某氏から「ゼロからのスタートでの資本は、多数のフランスの出版社との信頼関係であり、あなた自身だ。あなたの名前を出しなさい。」と、おだてられ、かつ励され、BUREAU HOSOYA と決めた次第。しかし、今だに日本での電話では「ビューティーホソヤ?」「ビール ホソヤ?」「ピエロ ホソヤ?」等と聞き返されて苦笑の毎日である。

業務内容は、ダイレクトリーの広告ページにありますよう、フランス、ドイツ、オランダ等の出版社及びフランス最大の輸出専門取次点 CELF 社、美術書・古書の CAHIERS O'ART 社の日本代表として、セール

スプロモーション（一部雑誌専門のみ）を努めております。

また、1987年パリブックフェアの折、日本の業者を7社、全額フランス側負担にて招待するにあたり、フランス出版組合の依頼により、企画・準備全てを担当。ここ数年は、フランス政府援助金付エアーフレート発送システムの開発、またフランス船便書籍送料の件で、関係各省へ奔走しており、コーディネート及びロビー活動は当分続きそうである。「日仏版細腕繁昌記」も楽あれば苦あり、「あなたが資本」とは「体力が資本」のことなりと痛感する今日この頃である。

1992年 8 月 30 日

総代理店ご案内

ユナイテッド パブリッシャーズ サービス社

Tel. (03) 3291-4541

Fax. (03) 3293-3484

カンダ ブック トレーディング ㈱

Tel. (03) 3255-3497

Fax. (03) 3255-3495

代理店業務開始のお知らせ

M. E. Sharpe, Inc. (U. S. A) 総代理店

St. James Press (U. S. A) 総代理店

Watson-Guptil Publications (U. S. A) 総代理店

Whitney Library of Design

Amphoto

Philip Wilson (U. K.) ストックリスト

Southeby's Publications

Scala Books

Zwemmer Books

Flint River Books

THE GEOLOGICAL SOCIETY

Publishing House (ロンドン地質学会出版部)

Special Publications

Memoirs

Special Reports

Engineering Special Publications

and other all Books

前回触れなかった和英辞書について、まず簡単に紹介したい。1867年(慶応3)上海で印刷されたヘボンの『和英語林集成』が、その優れた内容と編纂によって明治40年頃まで後続の辞書制作に影響を及ぼしたことは以前記した。三省堂は明治24年にイーストレキと文科大学教授神田乃武共編の『和英袖珍新字彙』を、また明治29年にはイギリス人で『ジャパン・メイル』主筆であったブリנקリー(Francis Brinkley)と文学博士南条文雄らの共編で『和英大辞典』を出版し、手頃な辞書として需要が多かったが、いずれもヘボンの影響を受けたものであった。そして同社が明治42年に刊行した英語学者井上十吉編集の『新訳和英辞典』に至ってヘボンの影響を脱し、和英辞書編纂に新しい時代を将来するものと評価され、今日まで続く和英辞書の原型となった。

さて、日本におけるフランス語は『諸厄利亜語林大成』を編纂した長崎通詞の本木庄左衛門・植林栄左衛門・吉雄権之助が1808年(文化5)に幕府より学習を命じられたのに始まり、1814-1816年(文化11-14)頃最初のフランス語辞書『私郎察辞範』がオランダ商館長ゾーフの指導で編纂された。しかし、本格的なフランス学は村上英俊に始まる。彼は松代藩士佐久間象山からフランス書の翻訳を依頼されたのを機会にフランス語の勉強を始め、その成果として松代藩の江戸屋敷で1854年(安政元) 仏・英・蘭3カ国対照の辞書『三語便覧』を著し、また1856年(安政3)に「いろは」順の日本語1,400語からフランス語・英語・オランダ語・ラテン語を引く『五方通語』を編纂している。1859年(安政6)に彼は幕府の蕃書調所の教授手伝となりフランス語の研究と翻訳に携わり、1864年(元治元年)に見出し語35,000を超える初めての本格的仏和辞書『仏語明要』4巻を自費出版する。

明治に入ってから、岡田好樹編『仏和辞典』が明治4年に上海で印刷されたのに始まり、明治20年には自由民権思想家江中兆民がリトレをもとに編纂した『仏和辞林』を彼の私塾仏学塾より発行し(改訂版明治24年丸善刊行)、さらに兆民はラールス辞書も参照して明治26年に『仏和字彙』を丸善より発行した。和仏辞典ではフランス人宣教師ル・マレシャル(Jean-Marie Le Marechal)

が編纂した。『和仏大辞典』(明治37年刊)は1,008ページにのぼる大冊であった。

日本がドイツ文化に初めて触れたのは1596年(慶長元年)に天草(?)で刊行されたキリシタン版『コンテンツス・ムンヂ』であった。ドイツ人トマス・ア・ケンピスの『キリストに倣いて』の抄訳であった。江戸時代にはオランダ東インド会社の役員として長崎の商館に赴任したドイツ人は多く、ケンペル、シーボルトのように西洋の新しい科学の扶植に貢献の大きかった人物が来日した。また、『解体新書』の原著がドイツ人医師ヨハン・アダム・クルムスの『解剖図譜』であったことなども一例で、日本とドイツとの文化的接触は意外に早くから始まり、また密接なものがあったといえる。幕府の方針によるドイツ語の学習は1860年(万延元年)に藩書調所で始まりドイツ語教科書の出版などがおこなわれたが、辞書は明治に入ってからで、明治4~6年に一挙に5タイトルも刊行された。その中にはお雇い外国人として京都欧学舎、東京外国語学校、東京大学予備門の教師を歴任し、後にドイツ東洋文化研究協会(OAG)の設立に関係して会長も務めたドイツ人レーマン(Rudolph Lehmann)の編纂になる『和訳独逸辞書』があり、第1分冊(明治4年刊)でみれば日本で最初の独和辞書であった。また初めての和独辞書も彼の手になり『和独対訳字林』として明治10年に上梓された。彼は教育面だけではなく、日本で最初のビール醸造工場(エビス・ビール)の地質選定と建設工事の監督をしているし、築地明石町にあったドイツの機械輸入商ラスベ商会の支配人として日独貿易にも携わるなど、活動は多方面にわたっていた。

彼の薫陶を受けた青年たちはやがて各界において日本の近代化のために活躍することになるが、彼ら教子たちは明治14年に師を記念して私立独逸学校を設立した。この学校は後に京都薬科大学に発展する。

江戸・明治を通して、欧米の新しい文化を送り続けてきた築地は、日本の近代化の醸成地であったということもできる。そして、例えば聖路加病院の新しい建物に瞠目する時など、それに象徴されるかのように、築地の先進性が今でも強く感じられてくるのである。

The Oxford English Dictionary

Second Edition

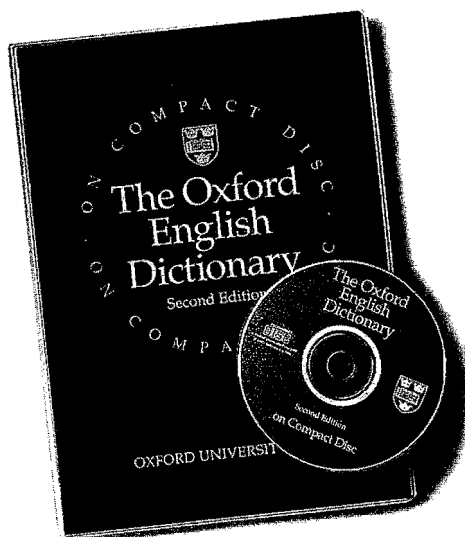
on Compact Disc

019 8612605 ¥178,200

All 20 volumes of the Dictionary are now available on a single compact disc, with the retrieval software distributed on floppy disk (both 3.5" and 5.25" disks are provided). The package comprises in addition an extensive manual, and the *User's Guide to the Oxford English Dictionary*.

Hardware requirements: To run the *Oxford English Dictionary (Second Edition) on Compact Disc*, you should have the following minimum configuration:

IBM PC with 80386 processor, DOS version 3.0 or higher, 1 Mb free RAM (minimum), CD drive, Microsoft CD-ROM Extension software version 2.0 or higher, 1 Mb free hard-disk space, Windows 3.0 or higher, VGA monitor



Oxford University Press

2-4-8 Kanamecho, Toshima-ku, Tokyo 171 Tel 03-5995-3901

1992年10月 通巻第305号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎ (03) 3271-6901 FAX (03) 3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田2-1-18 西阪急ビル 街録書房内 ☎ (06) 371-5395